

徐々にタカ派色の強まる欧州金融政策

ポイント① BOE 2会合連続の利上げを決定

BOE（英中央銀行）は2月3日の金融政策委員会にて、政策金利を0.25%から0.5%へ引き上げることを決定しました。BOEの利上げは、昨年12月に続き2会合連続で、本会合ではさらにバランスシートを段階的に縮小することも決定されました。金融引き締め背景には、インフレ長期化の公算が強まったことがあり、現に昨年12月の英CPI（消費者物価指数）の上昇率は約30年ぶりの高水準となっています。英国では、世界的な資源価格の高騰などに加え、EU（欧州連合）離脱に伴う労働者不足が物価の上昇要因となっており、引き続き追加的な利上げが行なわれる可能性もありそうです。

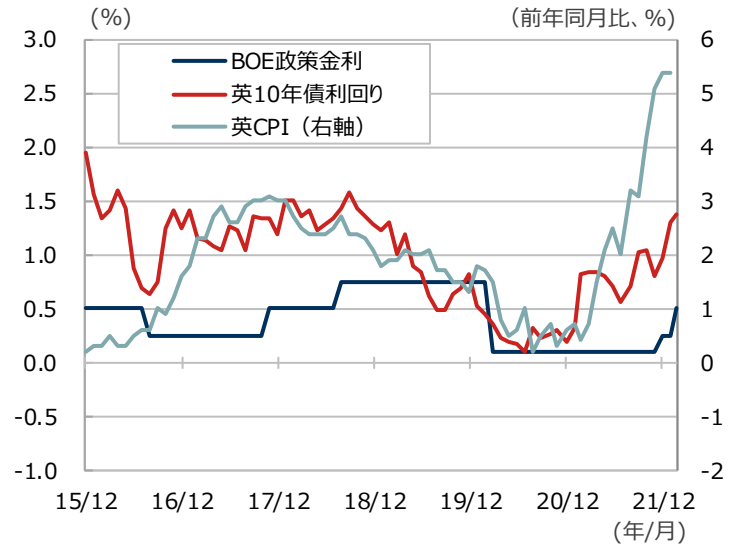
ポイント② ECB 年内利上げを否定せず

同日、ECB（欧州中央銀行）からも金融政策が発表されました。ECBは現状の金融政策を維持することを決定しましたが、ラガルドECB総裁は年内の利上げについて、「とてもありそうにない」としてきた従来の発言を封印し、「データ次第だ」と言いぶりを変更しました。背景には、1月のユーロ圏CPIが過去最高の伸びを記録したほか、ウクライナ情勢の悪化により、天然ガス価格が再び上昇するリスクがあるなど、ユーロ圏でもインフレが長期化する兆候が漂っていることがあるようです。なお、今回否定しなかった年内の利上げについては、「経済・物価見通し」を示す3月の政策会合の焦点となる模様です。

ポイント③ 英国・欧州ともに長期金利が上昇

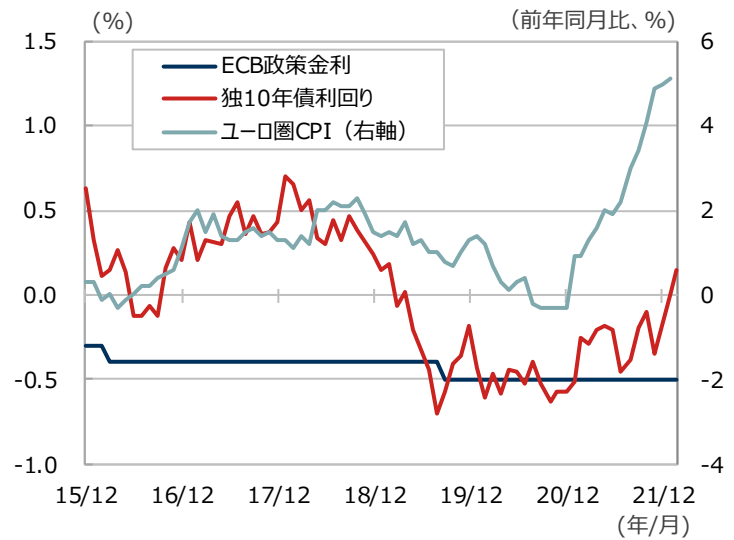
英・欧の金融政策発表を受け、欧州主要国債の利回りは上昇し、市場ではECBの年内利上げ観測が高まっています。為替についてもユーロ高が進行し、対円では約1ヵ月ぶりの高水準となりました。

英国の政策金利・10年債利回り・消費者物価指数の推移



期間：2015年12月～2022年2月3日、月次（CPIは1月まで）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

ユーロ圏の政策金利・10年債利回り（ドイツ）・消費者物価指数の推移



期間：2015年12月～2022年2月3日、月次（CPIは1月まで）
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 2月11日 英10-12月期GDP（速報値）、英鉱工業生産指数（12月）
- 2月14日 ユーロ圏鉱工業生産指数（12月）

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。